

椎葉村・球磨川流域観察会 写真集

2019. 8. 2～8. 5

●1日目(8月2日) 熊本 ⇒ 道の駅「通潤橋」 ⇒ 椎葉村へ

1. 道の駅「通潤橋」



南阿蘇交通バス



八朔祭りポスター



大つくりもの：美女と野獣。後方は通潤橋（修理中）

2. 椎葉村

(1) 椎葉民俗芸能博物館



博物館前景（椎葉村 HP から）

案内人・高島さん ⇒



椎葉村が民俗学発祥の地であることを納得できるいろいろな展示物



太鼓踊り



神楽面

(2) 椎葉巖島神社



(3) 那須家住宅（鶴富屋敷）



(4) 夕食・民謡鑑賞





正調ひえつき節はじめ宮崎の民謡を披露していただいた、元宮崎交通ガイドの椎葉なみこさん。椎葉村に伝わる多くの民謡を披露。

●2日目(8月3日) 焼畠体験



今年もお世話になった椎葉R黒木さんと諸塙Rの黒木さん

日本初の大規模アーチダム：上椎葉ダム

1. 火入れの準備



体験作業場「粒々飯々」広場に大漁旗が躍る

山と海は永遠の友達

椎葉 勝さん挨拶



巨大マイギリで火おこし



松明に点火



松明を持って山に向かう



今年火入れする場所 0.4 ヘクタール



昨年の焼畑実施場所



カダチ（火絶）をつくる



スズタケ築をつくる

2. 儀式



“これよりこのヤボに火を入れ申す
火の神様、どうぞ火の余らぬよう
ヘビ、クワドウ、虫けらども、早々に立ち退きたまえ 山の神様、
また、焼け残りのないよう、おん守りやってたもりもうせ”

3. 火入れ



風向きをみながらヨコガシラ→左右のタテグロ→ヨコジリの順に火入れする



虫けらどもの立ち退き



自然鎮火を待つ

自然鎮火後

4. アトラクション 地元有志による和太鼓、民謡



クニ子おばあちゃんも楽しむ

特別出演

5. 種まき

唱えごと：これよりアキ方に向かってまく種は根太く葉太く虫けらも食わんよう、一粒万倍、千俵万俵仰せつけやってたもり
もうせ



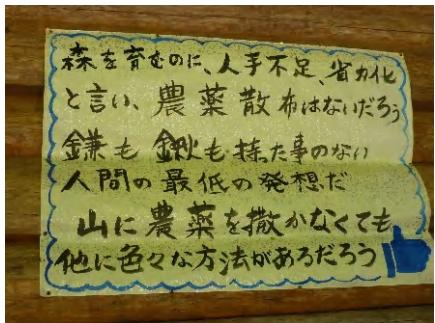
種はソバと平家ダイコン

種まきの後に
種と焼灰を混ぜる

6. 直会（なおらい：神事に参加したもの一同で神酒を戴き神饌を食する行事）



終わりの挨拶



お元気なクニ子さん

7. お宿



民宿おまえにて

民宿 紅葉屋



民宿おまえ



岩富旅館

● 3日目(8月4日) 人吉市に移動(市内観光)

1. 市房ダム



ダム湖（パンフレットから）



販売店の駐車場にネムが咲いていた



1回500円で10分噴水。
いろいろ変化し楽しめた。

2. くまがわ鉄道 シンフォニー号に乗る



湯前駅前モニュメント



湯前駅舎(登録有形文化財)



↑賽の鐘 夫婦円満のご利益があると
← くまがわ鉄道 シンフォニー号で湯前
駅から人吉駅へ。





ベートーベン交響曲第5番の楽譜掲示

車内 ⇒



車窓から



太良木駅前：恵比寿像



おかどめ幸福駅



球磨川

3. 人吉市内観光 案内：人吉観光案内人協会 松森さん

(1) 国宝 青井阿蘇神社



禊 橋



楼門(国宝)



(右から) 楼門、拝殿、幣殿(いずれも国宝)

(2) 人吉城跡



球磨川の向こうに人吉城跡



人吉城跡



(3) 球磨焼酎蔵元 織月酒造見学



工場遠望



織月とは三日月のこと



貯蔵樽



製造工程の説明。右は試飲会



(4) お宿 人吉旅館



人吉旅館と女将（人吉旅館HPから）



田中先生ご挨拶



平山優子さん（絵本作家）ご夫妻



（焼畠と球磨川流域観察にも参加）

●4日目(8月5日) 球磨川流域(瀬戸石ダム～八代海河口)視察

1. 瀬戸石ダム



豊かな球磨川を取り戻す会事務局長 つる 詳子さんに瀬戸石ダムで合流し、一日案内していただいた。



ダム付属のガイダンス施設があり、中にパネルで球磨川ダム水域改善事業の目的などを説明し、魚道をのぼってきた魚を見る窓があり、のぞいてみたが魚はほとんど見えなかった。

2. 百済来川 荒瀬ダム撤去によりこの川もきれいになった。



3. 荒瀬ダム撤去跡



1955年竣工、2012年まで稼働した荒瀬ダム。2012年に撤去工事が始まり、今その面影は対岸に残したコンクリートの塊だけ。



清流が蘇った

4. 鶴の湯旅館：昼食



創業 1954 年、創業者のひ孫土山大典さんが 10 年休業した旅館の再建に挑む。



食事のあとも球磨川の自然をレクチャ--

5. 八代海へ



球磨川河口

つる詳子先生が 2019.2.3・大阪ドーンセンターで荒瀬ダム撤去後、球磨川と八代海干潟が大きな変化を見せたことを講演されました。それによると
① 青ノリの生育が劇的によくなった。
② 干潟に徐々に砂が供給され歩ける砂干潟の面積が徐々に増えた。
③ アマモ場が 2014 年には 1.4 平方 km まで目覚ましい回復を見せた。その結果藻場に産卵しに来るイカ、サヨリ、エビ、ウナギが増えたようだ。

このような変化を見せた八代海の干潟を是非見たいと思いましたが、干潮時刻が夜で希望は叶いませんでした。いつかその機会がくることを楽しみにしています。